（平成２４年６月２２日）　**鉄鋼課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成２３年１２月末	平成２４年　３月末	平成２４年６月末見通し	平成２４年９月末見通し
－３６千トン ［　２２９７〃　］ （９８．７%）	＋２０千トン ［　２３１７〃　］ （１００．９%）	－１７千トン ［　２３００〃　］ （　９９．３%）	－３５千トン ［　２２６５〃　］ （　９８．５%）
２２６４千ﾄﾝ(98.6)	２２７８千ﾄﾝ(98.3)	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成23年１２月末	平成24年３月末	平成24年６月末見通し	平成24年９月末見通し
鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 78,000 円で前年比＋1,000 円、前期比では－2,000 円。先安感が強い市況展開であった。建設や復興需要に期待感はあるが、具体化されておらず内需は停滞していた。更には円高による輸出関連企業の採算悪化、打開策としての海外移転による産業空洞化で先行き不安が高まっていた。それらが需要不足の状況さらに助長し、市場環境改善への道筋を阻害していた。	鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 76,100 円で前年比－7,700 円、前期比では－1,900 円。メーカーは値上げ姿勢を鮮明にし、市況改善に乗り出したが、市中の反応はいたって鈍く、値上げを受け入れる環境ではなかった。店売りでは需要のなさゆえ、安値折り合いも散見され、相場の先行きが懸念された。在庫減少となったが、販売との相対感で過剰感を払拭しきれず、年度明けを迎えることになった。	前期より多少は良くなるとの見通しは、実現しなかった。需要は出遅れたままで、メーカー値上げも市況に反映されず、逆にジリ安状況を露呈した。在庫削減は需要のなさゆえ、進捗せず、在庫率は依然として高水準である。そして、一部メーカーの大幅値下げが市場を弱気一色に染めた。それによりユーザーの値引き要求は強まり、在庫の評価損、先安感による受注の手控えなど、採算を阻害する要因に取り巻かれることになった。	停滞した需要環境と弱含み商況のもと、在庫削減の努力が続くだろう。多少ではあるが物件も出るだろうが、市場を活発化させるまでには至らない。潜在的な需要増加要因はあるものの、価格動向の先安感に阻まれ実需とはならず、小口案件を拾い、糊口を凌ぐことで夏場を乗り切ることになるかもしれない。大幅値下げの後の市況再構築という展開が見えず秋口を迎えることになれば、販売業者の採算は一層厳しいものになりそうだ。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

当面、在庫削減に終始することになろう。市況は弱含みで先安感が強い。この状況で倉出し販売すれば逆ざやに陥る可能性もあり、それを避けるため繋ぎの商売に傾斜すれば、さらに在庫減らしが遅れるという悪循環に陥ることになりそうだ。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）各品種共に荷動き低調。スクラップ価格の想定外の下落と需要の低迷と相まって市況は全般的に下押し気味となっている。来期も小口物件は見られるものの、これといった案件は見当たらず、当面は低位横ばい状態が続きそうだ。

（愛知）建築関連は地場の物件が少なく、他地区の物件を受注して仕事量を確保している。名古屋市中心部の再開発案件が出件されるのは、早くて今年下期以降になるだろう。地場主要産業である自動車は堅調であるが、車種によるバラツキがあり、資材の加工納入業者にとって同じ需要分野でありながら景況感を異にする場面もある。６月以降、８月の盆休みまで例年は動く時期であるが、今年は不透明感が強い。